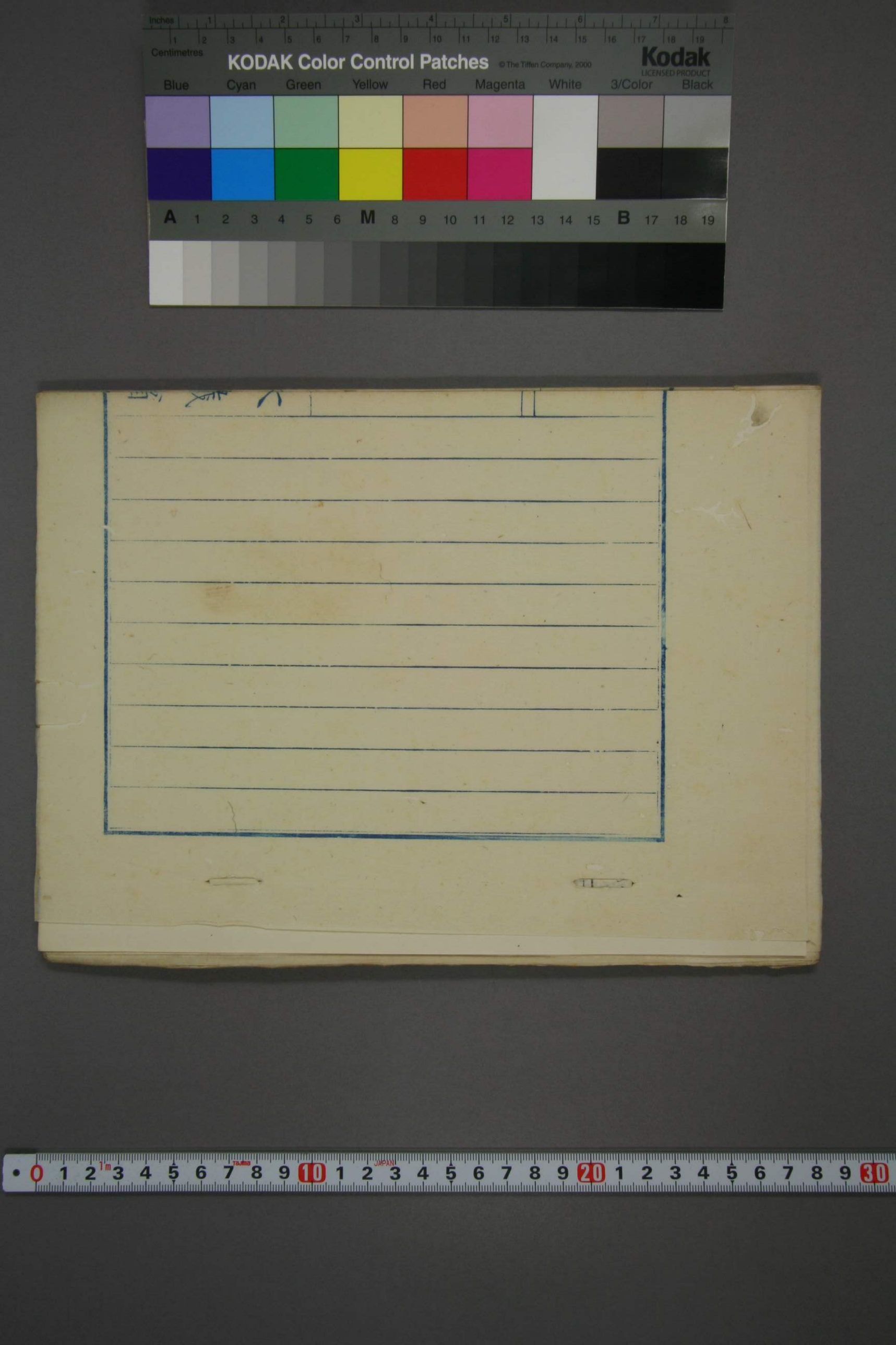

KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Inches
Centimetres
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
A
M
B

麟祥

114
A 2190
3

大蔵省

當察工業之上ニ付將来ノ見込相立各無隔意
懇議討論ヲ盡シ其粹ナルモノヲ取リ之レヲ
政府ヘ上申シ其處分ヲ乞候ニ付テハ事苟ク
モ重大ニ渉リ其成ルヤ政府人民ノ為幾多之
幸福ヲ保存スルハ勿論ノ事ニ候得ドモ其不成
ヤ弊害百出如何ホドノ困難ヲ釀成スルモ難
測ニ付各同心一体敢テ他言致間敷候依テ各
姓名ヲ自記スルモノナリ

明治七年八月一日　遠藤謹助　花押
長谷川方省　同

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

大蔵省

久世喜弘　同
大野直輔　同
長谷川為治　同
三島為嗣　同
森　信一　同
足立太郎　同

鳳彌

不肖謹助之ヲ造幣寮ニ承ル殆四閲歳加フルニ
客年權頭ノ命ヲ拜スルニ至リ自カラ短才其任
ニ堪ヘザルヲ知リ懇辭再三不得命爾来日夜黽
勉従事スト雖ヒ事擧ラス業進マズ上ハ以テ政
府無限之恩遇ニ報スルナリ外ハ以テ國家大莫大
ノ辱ヲ招カンヿヲ是レ恐ル寢食不甘ルヿ既ニ
一歳今ヤ何ノ幸カ轉任ノ命アリ尸素ノ責至ラ
ズ而却テ此寵任ヲ辱ス感喜ノ極不知所謝而メ
今謹助造幣ノヿニ就キ一二献芹スルアラント

又或ハ謂ハン之ヲ在職ノ日ニ言ス而去後ニ吸
ニス何ンソ謬レルヤ此言或ハ理アリ然リト雖
モ時未タ至ラス事行ハレ難キノ際ニ之ヲ論ス
徒ニ政府ヲ煩擾スルノミ是謹助ノ迂延今日ニ
至ル所以ニシテ今ヤ東洋銀行及ヒ首長キンド
ル條約ノ期將サニ至ラントス此時ニ方リ區区
ノ議ヲ憚リ默止以テ腹議ス苟モ國家ニ志アル
モノ、為ヲ忍フ所ナランヤ故ニ敢テ四年間躬
行身試スル所ニ就キ一二ノ鄙見ヲ陳述ス文鄙
俗ヲ不避諱忌諱ヲ冒ス伏願ハクハ閣下其不遜
ヲ不咎吐握ノ余暇一閲ヲ賜ヤ上國家萬一ヲ補
綴スルアラハ特謹助一人ノ幸ノミナラズ併セ
テ滿寮有志者ノ過憂ヲ氷解シ日後更ニ其成効
ヲ見ルアラントス

謹助頓首再拜白

大蔵少輔吉田公閣下

亀弼

一東洋銀行條約ヲ廢スル

此義頗フル難事ニ屬スト雖モ今ヤ條約ノ
朞將サニ滿タントスルハ實ニ一大好機會
ト云ベシ此際ニ當リ非常ノ雄斷ヲ以決然
不要再約謝絶スベシ從前ノ姿ニテハ我日
本政府ノ造幣寮ニシテ其實ハ權理ノ半ヲ
彼ニ奪ハレ我政府ニ於テ開閉張弛ノ權ヲ
專有スル能ハス外國人ヲ使役スル如キ二
三計算專務ノ者ヲ除クノ外名ハ我政府ノ
御雇人ニシテ其實銀行ノ使役タルモノト

大藏省

均シク縱令ヘハ其人物不適當ナルカ或ハ
勤勉過失等アルモ於政府直ニ之ヲ責黜
陟スル能ハス一ニ之ヲ銀行ニ報シ彼ノ承
諾ヲ得テ始テ其事ヲ行フヘク或ハ六萬圓
ノ證據金ヲ出シ（今既ニ政府ニ返セリ猶年ニ壱萬圓ヲ与フ）若干
萬圓ノ手數料ヲ与フルノミナラス貨幣鑄
造高ノ千分一ヲ賜ハル等其厚待實ニ非常
ト云ベシ其他我邦別ニ枝葉ノ造幣所ヲ設
クルモ亦必ス銀行ニ諮詢ノ上ヲ起スヘキ
等ニ至リテハ實ニ我レヲ束縛スルノ甚ト

キモノト云ベシ然リトイヘトモ此約タル從
新ノ際ニ方リ我邦未曾有ノ大事業タルヲ
以テ其方法節目ニ至リテハ學者ト雖モ未
タ其理ヲ窮ムルモノナシカフルニ廟堂ヲ
事始ク之ヲ銀行ニ依托ス是レ不得止ノ理
ニシテ當時ニ在テハ固ヨリ事ノ宜シキヲ
得ル者タリト雖モ今日之レヲ見ル其權限
實ニ過大遂ニ政府ノ權利ヲ損スル一不少
加フルニ年ニ許多ノ金額ヲ与フル國計上
多少ノ費耗トイフベシ故ニ今般條約ノ暮

大藏省

満ワル・至リ年来斡旋ノ勞ヲ褒賞シ断然
再約ヲ要セザルベシ是将来ノ為メ莫大ノ
利益ナルベシ

一寮中使役ノ外國人ヲ政府直雇ニスル事

此儀東洋銀行条約期限満ルニ在テハ固ト
ヨリ論ヲ俟タザル所ニシテ萬一政府ノ都
合ヲ以テ銀行約中一二継行ノ了アルモ此
一事ニ於テハ決然政府直雇ニ確定スベシ
左モナクシテハ我財ヲ抛ツチ人ヲ使役ス
ルノ際勤ヲ賞シ惰ヲ罰スル一切他人ノ鼻
息シ仰ガザルヲ不得寮ニ政府ノ威權ヲ損
スル細少ナラズ今ヤ我政府外人ヲ雇フ少
ナシトセズ恐ラクハ政府直雇ニ非ラザル
者ナカラン

一外國首長免職ノ了

外國首長ヲ置キ工業ノ事務一切彼レヲシ
テ擔當管理セシムル了開業ノ始メニ方リ
テハ不得止ノ策ニ出テ適宜恰好ノ所置タ
リ然リトイヘ既ニ首長アリ又タ造幣頭
アリ其管知スル所各限界アリト雖モ之ヲ

大藏省

賓地ニ施コスニ至リテハ一寮中ニ長官アル力如ク我章程ヲ踐行セントスレバ彼条約ヲ主張シ其權限ノ間往ヽ抵觸アルヲ不免若一ヽ其權ヲ相争ニ於テハ徒ヽ紛議絶ヘザルノミナラズ夫カ為メ百事壅塞事務不擧遂ヽ政府ノ不益ヲ醸成スルノ憂ナキ能ハザルヲ以テ寧ロ我レヲ枉ケテ彼レニ從ハザルヲ得ザルノ勢アリ章程ヲ踐行セザル何ヲ以政府委任ノ責ヲ塞カレ之ヲ踐行ス目下ニ窒礙シテ一事不擧造幣頭タル

モノ賓ニ至難ト云ハシ然リトイヘ𪜈今ヤ寮中ノ官吏及職工等稍工業ニ慣熟スルモノアレバ必スシモ首長ヲ置ヲ不要幸明年条約ノ満ルニ際シ断然之レヲ罷メ日本官吏ヲシテ其職ヲ盡サシメバ謹助ノ愚見ヲ以テスルヽ決シテ事務擧ラザルヲ不憂造幣頭モ亦タ十分已ノ才カラ奮ヒ章程ヲ踐行スルヲ得バ事務ノ擧ル却テ首長ノ在ル ニ勝ルモノアラシ

一外國人負ヲ減スル

大藏省

方今金銀地金ノ輸入漸次減少出入相償ハ
ザルノ際所費ヲ殺キ費負ヲ減却スル今日
ノ最大急務ナリ而シテ寰宇外國人ノ如キ
今日ヲ以テ之レヲ見ル其要スル所分析家
一人精銅方一人極印方一人機械方一人ニ
ヲ事足レリトス其金銀試驗方溶解方伸金
方極印彫刻方秤量方硫酸製造方伸銅計算
方ノ如キ我邦人既ニ之レニ代リ其事ヲ了
スルニ至ル一切之ヲ放免スル亦惜ムニ足
ラザルナリ

一諸局長ニ工業ノ任ヲ擔當セシムル
是マテ外國首長工業一切ノ事務ヲ擔當セ
ルヲ以テ諸局ノ長タル日本人ハ當ニ計算
上ノ責ヲ任スルノミニシテ工業ノ事ニ關
スルヲ不許故ニ傍觀黙視唯彼ノ為ル所ニ
任スルノ外他ナシ其尤困難ナルモノハ已
レ計算ノ任ヲ負ヒ地金ヲ管守スルノ責而
メ之ヲ工業ニ付スルニ至テハ一切外國人
ノ為ル所ニ任カセ已レ一切之レニ關スル
ヲ得ス方一缺減アルニ至ルヤ其工事ニ關

スル外國人ハ□然傍觀毫モ顧慮スル所ナシ而メ計算方タルモノ之ヲ督責訊問スル
ノ權ナシ已ノ一人其責メニ任セサルヲ得ス是困難中ノ困難ナルモノトス故ニ原來
外國人ヲ使用ストイヘトモ其局中ノ工業計算ハ其局長ノ擔任トシ萬一減欠等アルニ
當テハ外國人モ亦其責ヲ分任スルトセバ名實相適シ支吾ノ憂ナキニ庶幾カランカ
右ハ唯其槩略ヲ擧ルノミ瑣ニノ節目ニ至テハ枚擧スルニ遑アラズ而シテ熟考スレハ銀行ノ
条約ヲ改正シ首長ノ職ヲ罷ル等素ヨリ条約ニ
根據シ我レニ於テル一點ノ曲ナシ彼レニ於テ
モ更ニ異儀アルベキニ非ラズト雖事頗異常一
時面目ヲ改ムルヲ以テ或ハ外國人ノ謗議ヲ招
キ困難ノ極閉寮以テ事ヲ處置セザルヲ得ザル
ノ勢ニ至ラレモ亦測ルベカラズ萬一是等ノ
アラレニハ其余波紙幣ノ流通ニ障碍ヲ生ゼン
カ是レ最可恐事タリト雖管見以テ利害得失ヲ
豫定スル不能唯々謹助ニ於テハ今日ヲ失セバ
謝絶ノ機會急ニ不可得トノ過慮ヨリシテ不顧

忌緯尺寸ノ微衷吐露スルモノニ有之猶於廟堂
遠大ノ高議千祈萬禱スル所ナリ此議ヤ謹助一
人ノ私見トイヘ共ラクハ賓中有志ノ所見モ
亦大異ノモノ無之哉是亦閣下ヨリ下問ノ上何
分ノ高裁偏ニ及懇願モノナリ

明治七年八月二日　謹助再白

泉布觀ニ於テ

附言銀行從前ノ条約廢セザルベカラズト
雖モ外國人金銀地金ヲ輸入スルハ從前ノ
如ク銀行ヲシテ之レヲ取扱シメ其手數料
ハ三井組ト同シク地金代價ノ千分ノ一、五
ヲ與ヘ其余賓中所要ノ諸器械諸品ヲ歐洲
ヨリ購入シ或ハ貿易銀ヲ東洋地方ヘ輸出
スル「ヲイゼレ」トタラシムルハ是マテノ如
クスルモ亦妨ナシトス

龍弼

該寮事務ニ開スル東洋銀行及ヒ外國士官傭
入ノ条約等今之レヲ贅セスト雖ども載テ書
冊ニ在リ然リ而シテ開寮以降已ニ四年ノ久キ
ヲ経テ其鎔鑄スル所ノ惣額亦千萬圓之上ニ
出ス蓋シ盛ナリトイフ可シ方省等不肖職ヲ
此間ニ奉シ固トヨリ寸分ノ功ナシト雖ども其
實際從事上ニ於テ聊カ自ラ喜フ所ノ者ト其
目擊スル上ニ於テ大ニ悲嘆スル所ノモノアー
リ其聊カ喜ブ所以ノモノハ何ヤ曰ク我官員
職工稍其事業ニ慣レ試驗秤量ノ法分析鎔鑄

ノ術ヨリ以テ器械運用ノ技ニ至ルマテ凡我
朝未曾有ノ事業今日ニシテ始テ其端緒ヲ認
トムルニ至ル是ニ方省等ノ聊カ自カラ喜フ
所ナリ其大ニ悲嘆スル所以ノ者何レゾヤ曰
ク東洋銀行ノ專擅及ヒ首長欣氏ノ壓制是ナ
リ抑モ該寮ニ仕役スル外客其進退絶ヒテ
ガ氏其他両三名ヲ除クノ外都テ東洋銀行ノ
手ニ付シ其褒貶黜陟一モ我政府ノ命ニ因ル
ナク殊ニ東洋銀行ヘ毎歲莫大ノ謝金ヲ付
與スルモ亦不益ナラズヤ且ツ又欣氏ナル也

ノ平素夢措強暴我官員ヲ輕侮シ我職工ヲ虐
使シ動モスレバ我政府ノ命ニ抗シ益我意ヲ
主張シ往々怒罵自カラ忘レ其凶狀無礼言ニ
堪ユベカラザルモノアリ開寮以降屢寮頭ノ
其職ヲ辭スルモ或ヒハ之レニ因ルナルカ此
二ツノモノ方省等悲憤慨嘆ノ至ニ堪ヘズ既
往ヲ回顧シ將來ヲ熟思スルニ彼ノ銀行及ヒ
欣氏ノ条約其期限今將ニ近カントス希
クハ此際ニ臨ミ大ニ寮務ヲ改正シ真箇我日
本政府ノ造幣寮タラシメンヿヲ其着手ノ概

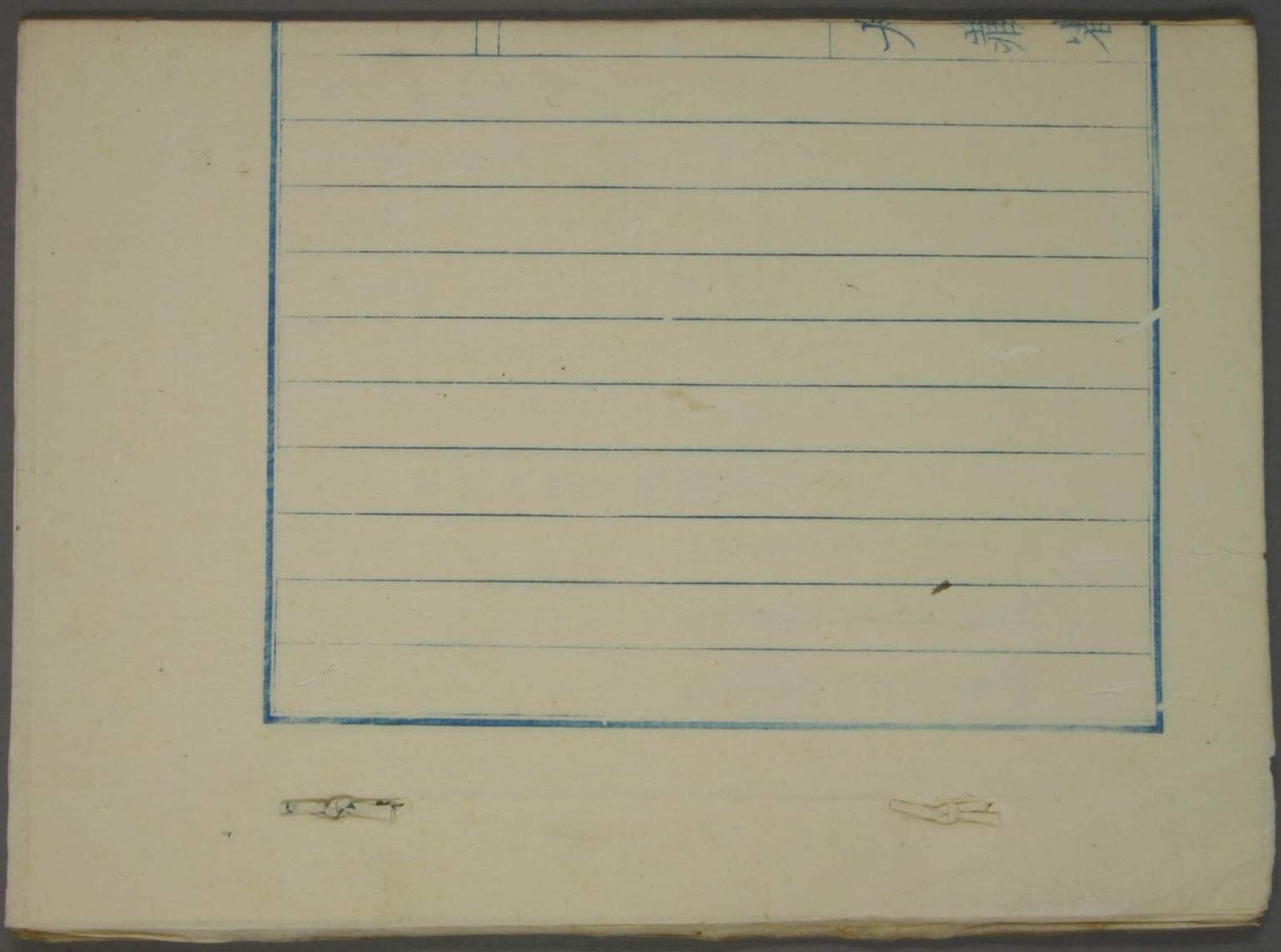
目ハ先ツ銀行并紙式ノ約ヲ解キ其余ノ外客
逐期之ヲ除去シ其最モ順良ニシテ能ク事ニ
堪ユルモノ数名ヲ撰ビ之ニ樞要ノ事務ヲ授
ケ権限責任其宜キヲ制シ更ニ我政府ト真確
ニ条約ヲ結ビ全ク我政府ノ進退自在ヲ得セ
シメ其職制ヲ変更シ我官員職工ノ其事ニ堪
ユルモノハ専ラ其職ヲ任セシメ一誠ニ千
載ノ一時ナリ然レトモ議者或ハ曰造幣タル
ヤ重且大我日本官吏ノ能ク其事ニ堪ユル
甚タ難カルベシ方者等則チ曰職固ヨリ難シ

然レトモ貨幣ノ重タスル所ハ品位秤量ノミ其
品量ヲ詳明ニシ此職事ヲ完了スルニ恐ラクハ
全局之レヲ外客ノ手ニ付セザル亦我人民半
ハ其事ニ習熟スルモノアラン乃チ方者等カ
實際ニ於テ知ル所ナリ曰テ熟ニ顧フニ其樞
要ナル試験方及ヒ精銅方器械方等ノ如キハ
之レヲ外客ノ手ニ付シ其他ハ皆我人民ハ彼
我互用シテ可ナラシカ今閣下幸ニ此地ニ来
遊セリ姑ラク賓務ヲ賓視シ苟モ方者等カ云
フ所ヲ以テ可トナサバ伏テ願フ速ニ之ヲ政

府ニ議シ擧行アランヿヲ方省等改正ノ槩畧
ヲ述フ其節目ノ詳ナルニ至リテハ謁見下問
ヲ辱フセハ幸甚方省等慨嘆ノ至リ堪ヘス敢
テ嚴威ヲ瀆冒ス恐懼再拜

明治七年八月　日

造幣寮八等出仕芝三太郎
造幣寮七等出仕森　信一
造幣寮六等出仕三島為嗣
造幣寮六等出仕長谷川為治
造幣權助　大野直輔
造幣權助久世喜弘
造幣寮四等出仕長谷川方省

吉田大藏少輔閣下

大藏省